

## 『2008年(1月～12月)JVA統計調査』について

当協会は3月10日(火)午後1時30分より、協会会議室において『2008年(1月～12月)JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。当日の出席者は、木村康詩統計調査委員会委員長(株)ポニーキャニオン営業本部レンタル営業部部長)、後藤健郎理事・事務局長、肥田幹夫管理部長、上田直子管理部次長兼広報課長。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2008年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.67』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

## 2008年(1月～12月)の実績について

### <変更点についての注意>

本年の統計調査から新たにブルーレイ(HD DVDを含む)とUMD(プレイステーションポータブル用ソフト)の実績を加算し発表している。前年比については、未発表であった前年のこれらのメディアの実績を用いて計算している。

ジャンル別にも変更を加え、これまでの『洋画(TVドラマを除く)』から韓国・中国・台湾・香港のものを独立させ『アジアの映画』としている。またそれにならい『海外のTVドラマ』から『アジアのTVドラマ』を独立させている。本年のDVDビデオのジャンル分け調査結果については、これまでのジャンルと比較するために『洋画』と『アジアの映画』を加算した数値、『海外のTVドラマ』と『アジアのTVドラマ』を加算した数値について別欄を設けて表記している。

1. 2008年のビデオソフトの総売上は2860億9800万円で前年比88.9%となった。2004年の3753億9300万円をピークに前年割れが続いている。

2. ビデオソフトの総売上金額のうち96.4%をDVDビデオが占め、ブルーレイ(HD DVD

を含む)の売上は 3.4%となった。ビデオカセットと UMD の売上の割合はそれぞれ 0.1%ずつとなっている。

3 . DVD ビデオの売上金額は 2757 億 2700 万円で前年比 86.9%、2004 年に 3000 億円を超えてから 5 年ぶりに 3000 億円台を切ることとなった。

DVD ビデオの売上は「販売用」市場の構成比が高く、本年も 63.6%を占めたが、1753 億 5600 万円と前年比 83.9%に留まった。販売用市場が 2000 億円台を切ったのは 2003 年以降はじめてのことで、最も売上の高かった 2005 年の 2621 億 7900 万円に比べて約 3 割の減少となった。

「レンタル店用」は DVD ビデオの売上金額のうち 35.9%を占めるが、989 億 3400 万円で前年比 92.8%、2006 年、2007 年と続いた 1000 億円台を切ることとなり、レンタル店における DVD ビデオの在庫整備もほぼ完了してきたことを窺わせる。

4 . DVD ビデオの「販売用」売上金額をジャンル別にみると、好調だったジャンルは『音楽(邦楽)』で、前年比 117.8%と二桁の伸びとなった。また『日本の TV ドラマ』も同 110.4%だった。昨今伸長の目立っていた『海外の TV ドラマ+アジアの TV ドラマ』は前年比 100.5%とほぼ前年並みだった。一方、その他では前年を割り込むジャンルが多く、『日本のアニメーション(一般向け)』は同 81.2%、『洋画+アジアの映画』も同 60.6%と大きく割りこんだほか、『邦画』同 80.2%、『芸能・趣味・教養』も同 79.9%となった。中でも『洋画+アジアの映画』は過去最高の売上となった 2004 年の売上金額の約 3 割程度まで落ち込んでいる。洋画のキャンペーン(2 枚買ったら 3 枚目がタダ・・・等といった販促キャンペーン)の効果もあり旧作の拡販がアタマ打ちになったことに加え、新作のビッグタイトルの減少が大きく影響したことなどが考えられる。

売上金額のシェアでは、『日本のアニメーション(一般向け)』が 27.0%と一番の構成比を占めており、2006 年以降 3 年連続で不動の位置となっている。構成比 2 位は、好調だった『音楽(邦楽)』が今回初めて構成比 2 位となり(17.3%)、『洋画+アジアの映画』は構成比 3 位(14.6%)に下がっている。

5 . DVD ビデオの「レンタル店用」売上金額をジャンル別に見てみると、売上構成比の 1 位は『洋画+アジアの映画』で 27.9%を占めているが、前年比は 86.8%と 2 年連続で前年割れとなっているのに対し、『海外の TV ドラマ+アジアの TV ドラマ』が前年比 120.2%と好調が続き、構成比 26.1%と『洋画+アジアの映画』に迫る勢いとなっており、依然レンタル店での人気の高さを示している。ちなみに『海外の TV ドラマ』と『アジアの TV ドラマ』の構成を分けてみると、16.1%と 10.0%となっている。その他『日本のアニメーション(一般向け)』は前年比 83.5%となり、『海外の TV ドラマ+アジアの TV ドラマ』に抜かれ構成比 3 位となった他、構成比 4 位(12.6%)の『邦画』も同 79.1%と奮わなかった。『日本の

TV ドラマ』は僅かながらも年々売上が増加しており、本年も前年比 107.7%と伸長している(構成比 7.1%)。

6 . ブルーレイ(HD DVD を含む)の売上金額は 98 億 6000 万円で、前年比 301.5%と大きく伸長した。下半期調査の段階で、回答社 34 社のうち 27 社からブルーレイの売上報告があった。

ブルーレイ(HD DVD を含む)全体の売上のうち 92.3%が「販売用」の売上であったが、「レンタル店用」の売上報告のあった社も 8 社あり、7.7%の売上構成比となった。

「販売用」の売上構成をジャンル別に見てみると、48.0%が『日本のアニメーション(一般向け)』、43.7%が『洋画』であり、まだ他のジャンルに大きな動きはない。一方、「レンタル店用」においても売上金額の 79.7%が『洋画』に占められ、『日本のアニメーション(一般向け)』が 11.4%であり、8 社の参入はあるもののジャンルの広がりは見られず、本格的な市場導入とは言いがたい。

以 上